野菜　**ヤマノイモ**

波板使い掘り取り楽に

エンジョイ園芸

――永田　茂穂

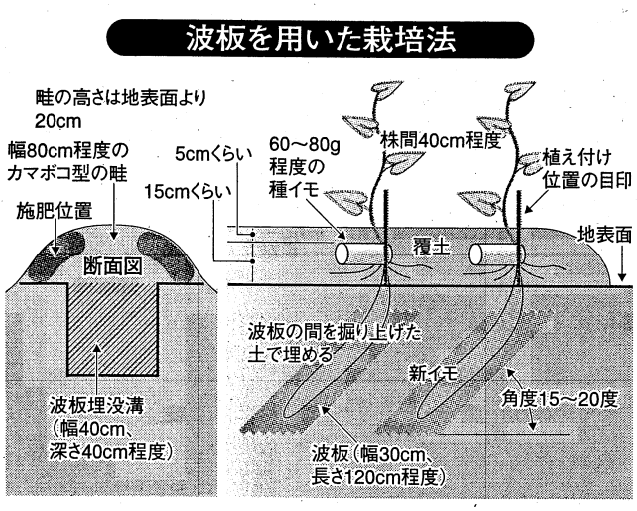
ヤマノイモ（ジネンジョ・自然薯）は多年生のつる性植物で，日本原産です。名前のとおり山野に自生しています。良質のでんぷんやカリウム，鉄分等が豊富で，古来から精のつく滋養強壮食として利用されています。粘りが強く，郷土菓子「かるかん」の原料をはじめ，そばのつなぎやトロロとして利用されています。

いもは１㍍以上になり掘り取りに苦労します。ここでは，掘り取りが比較的楽な波板を用いた栽培法を紹介します。

生育適温は１７－２７度で，多日照を好み，耕土が深く，水はけの良い壌土が適します。連作はセンチュウ害等が懸念されるので避けましょう。

植え付け時期は，晩霜の無くなる４月－５月上旬です。種いもは６０－８０㌘に分割したものを準備します。本ぽには１平方㍍当たりたい肥３㌔，苦土石灰１００㌘を施し，耕します。栽植軽度は畝幅１５０㌢，株間４０㌢程度です。幅４０㌢，深さ40㌢の溝を１５０㌢間隔で掘り，幅３０㌢，長さ１２０㌢程度の波板を斜め１５－２０度の角度で溝の中に置きます。

波板は掘り上げた土で間を埋めながら株間と同じ間隔に設置し，これを繰り返します。波板の上端から５㌢下方を植え付け位置とし，目印の棒を立てます。植え付け位置を中心に地表面より高さ２０㌢，幅８０㌢程度のカマボコ型の畦を作ります。同時に，畦の肩位置を中心に化学肥料７０㌘（三要素１５％の場合）程度を施します。



種いもは目印の位置に畦と平行に深さ５㌢に置き覆土します。敷きワテ，かん水をして乾燥を防ぎます。植え付け２，３カ月後に２回程度追肥（化学肥料２０㌘／回）を行い，除草をかねて軽く土寄せをします。夏期のかん水は塊茎肥大を促進します。１回目の追肥の後，アーチ型のパイプ資材等を利用して支柱を立て，キュウリネット等を張り，つるを誘引します。

収穫は茎葉が枯死する１１月以降で，波板ごと掘り取ります。貯蔵は土中貯蔵が一般的です。貯蔵庫を利用する場合は温度１－３度，湿度８０－９０％で貯蔵します。

（鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部長）

平成２１年５月１４日（木）／南日本新聞